

【研究主題】

主権者として必要な資質・能力の育成を踏まえた社会科、異学年集団での社会とつながるプロジェクト活動の授業実践を通して、今後の持続可能な社会の創り手を目指すプログラム開発

【開発するプログラムの概要】

小学校段階において主権者として必要な資質・能力の育成を目指した、社会科を核とした教科学習プログラムの開発

※令和4年度より研究開発学校の指定を受け、異学年集団での社会とつながるプロジェクト活動として「ちょうせん」の時間を設けている。

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<小学校・4年生> 社会科

【単元名】水の循環 ～上水道と下水道～（2）

【主な単元の目標】飲料水の供給や下水処理の事業は、安全かつ安定的に行われるよう計画的に進められていることや、人々の生活環境の維持と向上に役立っていることを理解する。

【学習問題】水道の水は、どのように送られてきて、使った後はどうなるのだろう。水の道筋を流れ図にまとめてそのひみつを探ろう。

時間	主な学習内容	
	社会科	関連付けた他教科等
1-3	校内の水の流れを図にまとめ、学習問題と学習計画を立てる。	
4	学校から浄水場までの水の流れを調べ、流れ図にまとめる。	
5-7	浄水場を見学し、水をきれいにする仕組みを調べ、まとめる。	「はっけん」の時間 附小のサバイバル！
8-10	水源までの水の流れを調べ、流れ図を完成させる。	「ちょうせん」の時間 国際交流プロジェクト
11-14	下水処理場を見学して仕組みを調べ、海に流す水について調べ、深まった課題をつくる。	「ちょうせん」の時間 海ごみプロジェクト
15-17	季節別運転管理の取組について、専門家に話を聞く。	
18-19	下水処理場の取組について話し合う。	「はっけん」の時間 アブラカタブラ
20-21	自分の考えを意見文に書いて発信する。	国語 「言葉で考えを伝える」

※単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号

※このほか、3年「農家の仕事」についても研究を行った。

【実践例】※社会科「水の循環 ～上水道と下水道～」第19/21時

授業の概要

<概要>

自分たちの地域の下水処理場が行っている「季節別運転管理（季節によって放流する水の栄養塩類の濃度を切り替えること）」について、きれいで豊かな海（河川）を確保していくために今後どのように取り組んでいけばよいかを話し合うことを通して、下水処理の事業が地域の生活環境に配慮しながら行われていることや、人々の生活環境の維持と向上に役立っていることを理解する。

これまでの学びを踏まえて、季節別運転管理を行う時季と範囲について選択・判断し、その理由を説明する活動を通して、根拠をもって相手を説得する力を養う。また、様々な立場の方の意見を基に考えられるように支援することで、多角的に考察する力も養えるようにする。

<指導上の工夫>

○**地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫**

- ・地域に見られる課題について考える「深まった課題」を、子供の意識の流れに合わせて意図的に設定することで、選択・判断する場面をつくり出す工夫
- ・正解が1つに定まっておらず、多様な考えに触れることができる教材を取り上げることで、専門家の意見を基に考察し、公正に判断できるようにする工夫

○**社会科と他教科等との連携**

縦割り活動「はっけん」の時間

専門家や関係諸機関等との連携・協働

- ・御殿浄水場の見学
- ・香川用水記念館の見学
- ・水資源機構の出前授業
- ・香東川浄化センターの見学
- ・香川大学瀬戸内圏研究センターとの意見交流



効果等

- ◆単元途中には、資料や専門家の発言等を根拠にして友達を説得しようとする姿や、様々な立場の意見を比較しながら考える姿等が見られた。また単元後には、身の回りの水に関する出来事に関心をもって調べようとしている姿が見られるようになった。
- ◆単元実施前後にとったアンケートで、「どうすれば地域や社会をよりよくできるかについて考えている」「わたしの考えていることが、地域や社会の役に立つことがあると思う」という項目に大きな伸びが見られた。
- ◆「地域や社会をよりよくするために、自分もなにかをしたいと思っている」という設問については、あまり差異が認められず、子供の具体的に行動を起こそうとする意識の向上に関しては課題を残している。